

平成24年度 第2回社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日時 平成24年9月27日(木) 14時00分～15時30分
- 2 開催場所 人材かがやきセンター 研修室
- 3 出席委員 16名
廣瀬委員長, 木村副委員長, 村上委員, 山本委員, 櫛渕委員, 福田委員, 高崎委員, 塚田委員, 菅原委員, 吉田委員, 勝田委員, 磐井委員, 伊藤委員, 石澤委員, 河田委員, 齋藤委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 議 事
 - (1) 報告事項
 - ① 平成25年宇都宮市成人式について
 - ② 宇都宮市民大学(前期講座)の実施状況について
 - ③ 人材かがやきセンター主催講座(前期)の実施状況について
 - (2) 協議事項
 - ① 「(仮称)第2次地域教育推進計画」のフレーム(案)について
 - ② 「(仮称)第2次宇都宮市図書館機能・サービス向上計画」の現状と課題等について

7 発言の要旨

廣瀬委員長	皆さん、こんにちは。 それでは早速、議事に入りたいと思います。報告事項が3点、協議事項が2点ございます。最初に平成25年宇都宮市成人式について、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	【資料について説明】
廣瀬委員長	ありがとうございました。 それでは、委員の皆様方から、平成25年の宇都宮市成人式についてご質問やご意見ございませんでしょうか。
櫛渕委員	地域交流事業について、地域の特性を活かした事業とはどのようなことなのか参考に聞きたいです。

事務局	<p>例えばですが、一部の中学校区の実施委員会におきましては、二十歳へのメッセージということで小学校6年生の時に書いたメッセージの発表や、各地域への思いや感謝の気持ちを書いたメッセージカードを大きな紙に貼りまして、こちらを各生涯学習センターの壁に貼るなど、地域の方の目にも触れるような事業を行っているところでございます。</p>
伊藤委員	<p>私は去年参加させていただいて、私の地域と他の地域の差がすごくあったということに驚きました。</p> <p>各会場で特色ある事業が行われると思いますが、事務局が薦める会場というのはあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>今まで、なるべく地元に近い場所にご出席いただくというのを、ここ数年続けてきたということがございます。ただ今いただきましたご意見については、大変申し訳ありませんが、こちら側では今まで考えていなかった部分でございます。やはり地元が良いという方もいらっしゃるでしょうし、ご意見いただきましたように、違う所も見てみたいという方もいらっしゃるかと思います。両方の方がいらっしゃることを踏まえまして、各地域でどのような地域交流事業が行われているか事前に情報提供する等、25年の成人式をどのように対応するかということを検討させていただきたいと考えております。</p>
廣瀬委員長	<p>ありがとうございました。では、平成25年宇都宮市成人式については了承したいと思います。</p> <p>次の報告事項、宇都宮市民大学前期講座の実施状況についてお願いします。</p>
事務局	<p>【資料について説明】</p>
廣瀬委員長	<p>この集客力は素晴らしい実績だと思います。特に私が良いと思ったのは、講座を職員研修に位置付けてしまうというのは非常に良いアイデアだと思います。</p> <p>皆さんからご意見ご質問、あるいは講座に参加した報告などございますか。よろしいですか。それでは引き続き、人材かがやきセンター主催講座の実施状況について説明願います。</p>
事務局	<p>【資料について説明】</p>
廣瀬委員長	<p>はい、ありがとうございました。人材かがやきセンターの事業についても、地域の課題や社会参加に結びつくような講座を中心に企画されているようです。皆さん、人材かがやきセンターの主催講座についてご質問やご意見、感想などありましたらお話いただければと思います。いかがでしょうか。</p>

福田委員	「ワンランク上の学校支援ボランティア」とありますが、何を基準にしてワンランク上ということになるのでしょうか。
事務局	こちらの講座につきましては、実際に活動を始めた方とか、活動をしている方を対象にしておりますので、他の学校の活動の様子などを意見交換していただいて、ワンランク上ということで、ステップアップしていただきたいという企画をしているところでございます。
廣瀬委員長	学校支援ボランティアの活動そのものを市役所がランク付けしている訳ではないということですね。次のステップにいきたいと思う人達の目を引く為に、ワンランク上という表現にしたのだと思います。ありがとうございます。 その他、ご質問やご意見ございませんでしょうか。感想でも結構です。
木村副委員長	イクジイの宮っこ育て講座というのは、大変良い企画だと思いながら見させていただきました。仕事が終わった時にこれからどう社会貢献をしようかと考えてらっしゃる60歳前後の方が身近にもたくさんいらっしゃいます。イクジイの宮っこ育て講座は主に男性対象ですが、同様の内容で女性を対象にした講座もしていただくとありがたいなと思いました。 また、「ワンランク上の学校支援ボランティア」とありましたが、非常に多くの人材を必要としていますので、そういう人たちを対象にして講座をしていただくということは、地域に貢献できるような、即戦力となるような活動になると思いますので、大変ありがたいなと思います。
廣瀬委員長	ありがとうございます。私もおっしゃる通りだと思いました。地域の課題をきちんと受け止めた講座になっていると思います。 他に、ご意見ご質問ございませんでしょうか。
勝田委員	各講座の受講を終了された方が、今現在どのような形で活動されているのでしょうか。
事務局	受講された方が、その後どのような形で活躍しているのかというところまでは、申し訳ございませんが掴めていないというのが現状でございます。 私どもの方では、講座を受けていただいて、地域で活躍していただくことを目的としてやっておりますので、地域への結びつけ方につきましては非常に重要な課題であると認識しております。来年の講座等につきましても、そのあたりを意識しながら地域に直接結びつく事ができるような、橋渡し役になれるように、講座を頑張らせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

廣瀬委員長	各生涯学習センターをつないでいるような仕組みや制度を整えていった方がいいのではないかと思います。
事務局	人材かがやきセンターの講座と活動を結びつけるという仕組みは作っていないのですが、今、市民まちづくり部と共同で各地区ごとに人材バンクを作成する検討を進めており、今年度中には試行していくという状況でございます。
廣瀬委員長	はい、ありがとうございました。あともう1点、各生涯学習センターで行っている事業と人材かがやきセンターで行っている事業との違いについて、趣旨や思想、考え方等の整理をしておくべきだと思います。
伊藤委員	講座で外に出て実際に体験をするなど、プログラムの中にそういうものを組み入れることはないのでしょうか。座って講演を聞くだけなのですか。
事務局	講座のプログラムにつきましては、座って聞くだけですとどうしても皆さん退屈してしまいますので、実際に現場で体験していただくというところを取り入れながらプログラムをしております。
廣瀬委員長	はい、ありがとうございました。それでは、他にございませんでしょうか。無ければこれで宇都宮市民大学、人材かがやきセンター主催講座の実施状況についての報告を了承いたします。 続いて、協議事項に入りたいと思います。「(仮称)第2次地域教育推進計画」のフレーム(案)についてお願いします。
事務局	【資料について説明】
廣瀬委員長	ありがとうございました。 それでは、何かご意見ございますか。印象でも結構です。
塚田委員	基本目標について、「取り組んでいます」というような口語的な表現になっていますが、目標なので「取り組みます」や「取り組んでいきます」という表現の仕方にしないと目標という形にならないような気がします。また、「学習に取り組んでいる状態を目標とする」とありますが、これは、「取り組むことを目標」または、「取り組んでいくことを目標」という表現が良いのではないのでしょうか。
事務局	今回の計画といたしましては、課題が解決されている状態をイメージして目標とさせていただいたところがございます。その関係で「取り組んでいます」というような、はっきり解決された後の理想的な状態をイメージし

て、このような表現をさせていただいているところでございます。

塚田委員

目標というのは、目的を達成するための目当て、達成するために掲げたものだと思うのですが、現状報告みたいな表現があると、目標ではないと思うのです。また、「状態」というのが付いているのが気になるのですが、その説明をお願いします。

事務局

私どもの計画を作る時の1つのルールのようなものなのですが、宇都宮市は一般的に目標という時は完成した時の状態を表現するのが一般的です。こういう状態になっている、こういう状態を目標にしています、こういう状態を作ることを目標にしています、というような書き方としている所が多いというのが現状です。

また、宇都宮市では現在、第5次宇都宮市総合計画の改定作業を合わせて進めております。その総合計画の中でも、やはり目標としてはさまざまな課題が解決されたような理想的な状態を目標というように設定している部分もありますが、表現の取り扱いにつきましては、今後の総合計画との関係も含めまして検討させていただきたいと考えております。

廣瀬委員長

はい、ありがとうございました。市の書き方として統一した書き方があるでしょうから、そのことはそれで良いとして、市民に分かりやすい説明を付け加えてくれれば良いのではないかと思います。いずれにしても、どういう使い方をするかは市全体の計画の使い方にも用例があると思いますので、それに習わないといけないと思います。その他に、ご質問やご意見いかがでしょうか。

勝田委員

順調に進捗している事業と進捗の遅れている事業がありますが、あれもやりたい、これもやりたいということは非常に良く分かるのですが、これはだめだなと思われる施策は廃止にするという考えはないのでしょうか。実際に行っている地域の方は、非常に大変なことであります。これはだめだなと思う事業はやめてもいいのではないかと思いますので、いかがでしょうか。

廣瀬委員長

はい、ありがとうございました。非常に良いご意見だと思います。スクラップしていくという考えが必要だと思います。そのことについて、事務局をお願いします。

事務局

目標が達成された場合についてはスクラップをしていくというのがあると思います。目標を達成するために手法があるのでございますが、その目標を達成するには、当初Aという手法でやっていたけれどもBの方がいいなとなった時には、当然それはBに乗り換えていくという形になってまいり

ます。ただ、Aしかないという場合には、何とか実現していこうというのが行政でございまして、何年経っても出来ないというものにつきましては、当然再検討しなければならないというような流れになっております。

廣瀬委員長

はい、ありがとうございました。非常に良いご意見だったと思います。他にご意見のある方はいらっしゃいますか。

河田委員

行政の方は大変だと思いながら聞いておりました。行政がするのではなくて、私たちが課題に対してどうするのかというのが、この会議の場なのではないでしょうか。行政に対して「やりすぎではないですか」というのは、私的には少し違うのかなという気がしました。

廣瀬委員長

ありがとうございました。他に皆さんご意見いかがでしょうか。質問でも感想でも結構です。

木村副委員長

今、住民協働社会ということで、まちづくりや社会福祉など地域にさまざまな業務が下りてきていますが、受け手は全て同じような人で、同じような人が動いています。昔は行政が行っていることに市民が参加をするというような形態でしたけれども、今は市民が行っていることに行政が参加をするというような形態に変わってきています。地域に全てを下ろしていくのではなくて、もう少し行政の方が地域との丁寧な話し合いをしていかなければ、今まで関わっていた人が離れていくような状況も生まれてくるのではないかと危惧をしているような感想を持っています。

廣瀬委員長

ありがとうございました。私もすごく良い意見だと思いました。他に何か皆さんからございますか。感想でも結構です。

福田委員

放課後子ども教室とはどのようなものなのか説明していただければと思います。

事務局

放課後子ども教室につきましては、平成19年度から国の放課後子どもプランという流れを受けまして、宇都宮市では宮っ子ステーションという名称で、子どもの放課後の体験の場を作っていこうということで進めている事業です。こちらの事業につきましては、放課後にコーディネーターの方にさまざまな事業を企画していただきまして、地域の多くの方に関わっていただきながら、子ども達がさまざまな活動を通してコミュニケーション能力などの生きるための力を身につけていくという事業であります。

廣瀬委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。無ければ、私から最後に一言よろしいでしょうか。

計画の中に、人間としての楽しさや人生の豊かさ、また、個人の幸せや人とつながる喜びなどといった文言が消えています。全体的に味気ない感じがして、ただ学習して地域のためにやっているだけと言っているような感じがすごくあります。そうではなく、もう少し人生の喜びみたいなものを計画のどこかに盛り込んでほしいのです。いろいろな人と出会って楽しい、嬉しいという、そういう観点のところもきちんと大事にしてほしいと思います。

続いて、協議事項の2、「(仮称)第2次宇都宮市図書館機能・サービス向上計画」の現状と課題等について、説明いただきたいと思います。

事務局

【資料について説明】

廣瀬委員長

はい、ありがとうございました。図書館サービスの現状と課題についてよくまとめてあり、興味深いデータも出ていると思いますが、皆さんご意見ございますか。感想でも結構ですので、いかがでしょうか。

塚田委員

資料5の別紙2の子どもの読書に関わるボランティアの活動人数というところに、小中学校における読み聞かせボランティアの人数が減っているためとあるのですが、これは図書館サービスの現状と課題とどう関連があるのでしょうか。

事務局

はい、こちらにつきましては、子どもの読書活動推進計画での評価になってございます。

廣瀬委員長

これは一体化するので関わるということですね。私も同じところで一つ質問したかったのですが、ボランティアの数が減ったことにより進捗が順調ではないというのはどうなのでしょう。例えば、読み聞かせの回数が減っているというなら分かりますが、ボランティアの数が減ったことにより進捗が順調ではないというのは、少し分析としては甘いという感じがします。一人あたりの読み聞かせの回数が増えていけば、実際にボランティアの数よりも読み聞かせの回数の方が重要なのではないかと私は思います。

事務局

はい、ご指摘の通り、指標として適切でなかった部分もありますので、今後の計画の指標の設定にあたりましては、十分検討してまいりたいと思います。

廣瀬委員長

他に皆さんいかがですか。感想でも結構です。

高崎委員

資料5の別紙2の左下のところに、「第2次子ども読書活動推進計画」の評価という欄がございます。その中に、子どもの1か月の読書量として、小

学生，中学生，高校生がそれぞれ何冊というデータが出ておりますが，これは直接，小中高生にアンケートなどで調査したものなのでしょうか。それとも，5つの市立図書館の貸出数から調べた数値でございましょうか。教えていただきたいです。

事務局

この数値におきましては，市の学校教育課のほうで各学校に調査を行いまして，ある一月あたりの子どもの読書量を確認いたしまして，その数値を出したものでございます。ただ，高校生につきましては，県の管轄になっておりますので，栃木県の調査結果となっております。

村上委員

高校生が1.4冊は非常に少ないと思うのですが，おそらく十数冊というふうになるのではないのでしょうか。この数値が一人歩きして，宇都宮市の高校生は本を読んでいない，また，小中学生に比べて非常に教養の摂取が少ないのではないかととられてしまいますので，何か別の方法で調べてみるともっと数値が上がるのではないかなと感じます。図書館だけではなくて，お小遣いで好きな本を買うとか，友達から借りるなど，いろいろな方法で読んでいるのではないかと思いますので，何か別の方法で調べることができましたら，お知らせいただければと思います。

廣瀬委員長

ありがとうございました。要望ということですね。その他，何かございますか。

木村副委員長

読書量の冊数ではすごく伸びていると感じました。また，活字に親しみ本を読むということは大変重要であると思いますが，どんな本を読むかということも，子ども達の心を育てたり，その後の人生観を変えるということでは大変重要だと思います。例えば，名作と言われているものであるとか，子ども達の成長にとってぜひ読んでいただきたいというような推薦図書がどれだけ読まれているとか，そのような観点も重要ではないかと思うのですが，今後の計画の中でどのように考えているのかお聞きしたいと思います。

事務局

計画の中でも当然触れていきたいと思っておりますが，今現在，図書館では，「M i y a t e e n」という高校生向けの情報誌を作成しております。特徴といたしましては，高校生自身が編集委員となって同世代の高校生にこういう本を読んだらいいのではないかと，おすすめ本を紹介するような情報誌を作成しております。その中には，夏目漱石などの名作と言われるようなものも含まれておりまして，そういったものを広く高校生に配布をしながら，より良い環境づくりが出来ればと考えているところでございます。

廣瀬委員長 はい、ありがとうございました。他に何かございますか。

事務局 補足説明をさせていただきます。小学生対象では、毎月新しく出版される日本の作家が書いた創作ものの中から子ども達が友達にすすめたい本として推奨するものをホームページやパンフレットでおすすめているところ
です。中学生については、宮っ子チャレンジという体験学習がございまして、図書館に来た生徒には友達にすすめたい本を紹介していただき、それを少しずつではありますが、ホームページの方で紹介させていただいております。後は、学校支援の関係で、小中学生にぜひ読んでもらいたいという本のパックを図書館の方で用意いたしまして、それを希望があった学校の方に発送しているような取組は行っているところです。

廣瀬委員長 はい、ありがとうございました。他にございますか。

村上委員 今回、図書館機能サービス向上計画ということで、図書館の主導ということで話が進んでいるのですが、参考として、学校で1か月の読書量が増えたという施策の中には、学校教育課の方で非常勤の図書館司書を全校に配置していただいたという施策がありまして、それがかなり大きなバックアップになり、学校として読書量が増えたという事実もあります。

廣瀬委員長 はい、ありがとうございました。宇都宮市の計画は素晴らしいですね。他にございますか。

吉田委員 子ども達に活字に親しませるという観点から言うと、今学校で習っていると思うのですが、新聞をたくさん読ませる、そのことから、授業を受けたものをクリアしていくという、そういう高校生も増えていると思います。そういうものが組み込まれた表現というのはされているのでしょうか。例えば、本ということでこだわってしまうと、除外されてしまうかもしれないので、確認いたしました。

廣瀬委員長 事務局お願いします。

事務局 今のところ具体的には含まれておりませんが、ご指摘のとおり、本を読むだけが全てではないと思っておりますので、新聞等についての扱いにつきましても、今回の計画の改定にあたりまして、十分検討させていただければと思います。

廣瀬委員長 はい、分かりました。その他ございませんでしょうか。

勝田委員 図書館のお話なものですからお聞きしたいと思うのですが、貸出数の量や、

蔵書の量が書いてありますよね。入館者数というのはどうなのでしょう。受験生が本は借りないけれど、受験勉強をしに行く。そのような中で、椅子が硬いからもう少し良い椅子にしてほしいというような部分もあるかと思うのですが、全体の図書館の入館者数というのは、いかがなものかということでお聞きしたいと思いました。

事務局

入館者数につきましては、計測ができる図書館が南図書館しかないのですが、中央図書館、東図書館でかつてサンプリング調査を行った時がありまして、特に高校生が何人という、そういうサンプリングではなかったのですが、平均して中央、東におきましては平日で二千人、これはほぼ南も実績として同様の数が出ております。土曜日、日曜日、祝日等については三千、夏休み等になると四千ということで、多くの方に来ていただいているところです。

廣瀬委員長

はい、ありがとうございました。図書館にはさまざまな機能があるので、本を貸し出すだけが図書館の機能ではありません。そういう機能が合わさってデータとして出ているということです。

齋藤委員

読み聞かせボランティアについてお伺いいたします。今、人数は減っているということですが、私の子どもは中央小に行っておりまして、そこで時々読み聞かせのボランティアに行っているのですが、今回私は学校のお知らせで募集しているということを知ったのですが、他の学校や地域の方などでボランティアをしたいと思う方の募集は具体的にどのようにされているのでしょうか。

廣瀬委員長

事務局お願いします。

事務局

講座として、読み聞かせのボランティアを募集する場合がありますが、常時やりたい方がいらっしゃいましたら、図書館の方で勉強会を用意しておりますので、そちらの方に参加していただき、ぜひ図書館、あるいは学校、地域で読み聞かせをしてください、ということで、随時受け付けている状況でございます。

廣瀬委員長

なるほど。図書館へ行って講座を受けると、そういう情報が得られるということ。ありがとうございました。その他にも学校には地域コーディネーターがいるので、コーディネーターと直接話してもらえればいいのでしょうか。コーディネーターをされている伊藤さん、お願いします。

伊藤委員

はい、学校支援ボランティアという形でコーディネーターをさせていただいてまして、学校でこんな人材がほしいとか、そういうこともひと通り

コーディネートさせていただいております。私の地区は募集に回らせていただいたり、やってらっしゃる方から紹介していただいたり、そのような形で進めさせていただいています。

廣瀬委員長

はい、ありがとうございました。学校でボランティアをしたい人は宇都宮市では二重、三重にいろいろな機会があると思います。まちの先生の仕組みや、コーディネーター、図書館、さまざまな入り口があり恵まれていると思います。

他に何かございますか。

菅原委員

ボランティアの人数が減っているとか、ボランティアの人材育成というのがどうしてもメインになってしまうのですが、先ほどの募集に関してのやり方をもう少し考えていただいて、学校の図書館に興味のある人だけが目に入るような募集ではなく、もう少し、何らかの形で考えていただくと、ボランティアの活動が具体的になるのかなと思うのですが。

廣瀬委員長

おっしゃる通りだと思います。市内だけでなく、県内の学校支援ボランティアをやっている人の7割くらいは読み聞かせボランティアです。ですから、学校支援ボランティア全体の話でもあると思います。

高崎委員

11月1日が古典の日ということで、法律で制定されたことは皆さんご存知かと思いますが、このことについて、何か計画や取組などがございましたら、聞かせていただければと思います。

廣瀬委員長

はい、いかがでしょうか。

事務局

今年度につきましては、古事記をテーマに展示の特集と、古事記を研究している大学の教授をお呼びいたしまして、入門編のような講座を企画しているところです。

廣瀬委員長

はい、ありがとうございました。皆様から多くのご意見をいただきましたので、第2次宇都宮市図書館機能・サービス向上計画の現状と課題等について協議を終了したいと思います。

その他の案件について何かありますか。

事務局

【次回の会議日程について説明】

廣瀬委員長

はい、ありがとうございました。

では、最後をお願いします。

事務局

委員の皆様におかれましては、本日はお忙しい中、また限られた時間の中、多くのご意見をいただきまして、ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、平成24年度第2回社会教育委員の会議を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。